

総合型選抜 2023 年度過去問題 看護学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

家族の介護や世話をする 18 歳未満の子ども「ヤングケアラー」について、政府は 7 日、全国の公立校に通う小学 6 年生を対象に実施した初の実態調査の結果を発表した。6.5%（約 15 人に 1 人）が「世話をしている家族がいる」と回答し、既に調査結果を公表している中高生同様に、低年齢層でも一定程度が家族ケアに迫られる実態が判明した。一方、大学生への調査も初めて行われ、進学や就職の不安につながっている実態も分かった。【山田奈緒】

◇政府初の調査

児童調査は 1 月、350 校で実施。調査票（無記名）を郵送で回収する方式で 9759 人から回答を得た。2020 年度に実施した中高生の調査では公立中 2 年の 5.7%、公立高 2 年（全日制）の 4.1%がヤングケアラーとされ、これらを上回った。しかし、今回は児童が混乱する可能性などを考慮し、ヤングケアラーの具体的な事例を説明せずに調査しており、過度な負担ではない「お手伝い」なども含まれているとみられ、実態より大きな数字が出ている可能性があるという。

その上で、児童がケアする相手（複数回答）は、きょうだい（71.0%）が最も多く、母親（19.8%）、父親（13.2%）、祖母（10.3%）、祖父（5.5%）と続いた。ケアの理由（複数回答）は、相手がきょうだいの場合「幼い」（73.9%）が突出し、弟や妹の世話や家事などを行っているとみられる。

両親の場合は「分からない」（33.3%）が最多で、「その他」（19.6%）、「無回答」（15.2%）と続き、家族の病気や障害への理解が児童には難しい状況が浮かぶ。次いで「日本語が苦手」（10.9%）が多く、日本語が母国語ではない親の通訳などを担っている状況がうかがえる。「心の病気」は 8.7%、「身体障害」は 8.0%だった。

ケアを始めた年齢は 7～12 歳が約 7 割、6 歳以下も約 2 割いた。ケアの内容は家事や身体介護、見守りなど多岐にわたり、頻度は「ほぼ毎日」が約半数。ケアに割く時間は平日の 1 日平均約 2.9 時間で、3 時間未満が約半数を占め、6 時間以上も約 1 割いた。世話の「大変さ」を感じる児童も一定数おり、心身の健康への悪影響が懸念される。

ケアがあるためにできていないこと（複数回答）は「特になし」（63.9%）が最多で、「自分の時間がとれない」（15.1%）、「友だちと遊べない」（10.1%）が続いた。また、相談経験の有無は「ない」が 76.1%に上った。

一方、大学生は 21 年 12 月～今年 1 月、全国 396 校の 3 年生を対象にウェブで回答を求め、9679 人が回答した。「世話をしている家族がいる」は 6.2%、「今はいないが、過去にいた」は 4.0%だった。一般的にヤングケアラーの定義は 18 歳未満だが、家族ケアの負担が進学などに与える影響を明らかにする目的で実施した。

将来の不安（複数回答）は「自分の時間がとれない」（20.1%）▽「1 人暮らしができるか」（15.9%）▽「恋愛・結婚」（14.4%）▽「希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない」（13.6%）――など。ケアの相手（複数回答）は母親（35.4%）、祖母（32.8%）、きょうだい（26.5%）――の順に多く、母親の場合の理由は精神疾患が最多。大学入学前からケアを担っていた学生は、その 3 割弱が進学の際に経済的な不安を抱えていた。

（出典：毎日新聞 2022 年 4 月 8 日 東京朝刊、ただし、文章の一部に変更を加えている）

問1 今回政府が調査し回答したヤングケアラーの人数を答えなさい。

問2 ケアがあるためにできないことについて、63.9%が「特にない」と回答している理由についてあなたの考えを300字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

問3 ヤングケアラーの子ども達に、どのような支援が必要かあなたの考えを400字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。